

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市二ツ寺町西高須賀2番地		
自己評価作成日	令和6年10月5日	評価結果市町村受理日	令和6年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyouvoCd=2375601016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさ・個性・リズム・ニーズを共感し地域の中で「普通の生活」を送って頂けるように支援する事。出来る限り在宅での生活の延長上にあるようなホーム作りや、個別支援に力を入れております。現在はコロナ対応も緩和傾向にありご家族様、関係者様の面会や外出支援の緩和や慰問・ボランティア訪問など以前の交流が徐々にできるようになり、職員の外部研修の機会も増えました。この研鑽が入居者の方に活かすよう努めております。R6/2月より毎週月曜日に施設玄関へ移動販売車が来るようになりご自分の好む物を購入し楽しんでおります。またホーム内での野菜作りや収穫、季節に合わせた食事など五感を感じて頂く取り組みや自筆による家族通信や絵手紙なども継続しています。ご家族様の意見を書面で2ヶ月/1回頂くアンケートも実施し反映しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共同生活の場とはいえ、在宅に近い雰囲気個別ケアに力を入れ、利用者自身が今やりたいと思うことを実現させている。脚力を鍛えたいという利用者は、健康器具を使って自主トレーニングをしている。書道クラブでは利用者が書を嗜み、達筆な作品が通路の壁面等に掲示されている。家族宛てに毎月発行されているホーム便り「福寿草」には、利用者が自筆のメッセージを書いている。コロナ禍により薄れていた地域との繋がりを再開するため、新たなボランティア団体の開拓を始めている。移動スーパーや衣料品の移動販売も受け入れており、これらのホームの発案が複合施設全体の取り組みへと波及している。特別養護老人ホームに併設という利点を活かし、ホームとしてできることはないかと常に地域にアンテナを張り、小さな情報も逃さず取り入れる良さがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は出来ており“その人らしく”を一番に考えている。ご家族にもご相談し本人主体の実践に繋げていけるように努めている。	1ユニットの小さなホームだからこそできる「その人らしく」生きるための支援を実践している。職員が理念を共有し、日々の平穏な暮らしの中にも、刺激のある活動を取り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつですが地域主催の催し会の参加や地域商店への移動販売のお願いなど地域の方に協力や交流をお願いしている。また地域の行事への参加を忘れないようにしている。	数年前に申し込んだ移動スーパーが今年度から実現し、少しずつ地域との交流が始まっている。地域ボランティアの受入れ再開に向け、市民活動の「あまの輪」に参画する等、新たな繋がりを開拓している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設代表者が地域の防災訓練などの参加をし、災害時の協力施設として受け入れや避難場所として体制を整えている。地域の施設交流も体験、見学を通じて深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は施設にて対面式で行っていますが2ヶ月/1回の書面アンケートにて意見を頂きサービス向上に役立てている。	運営推進会議のメンバーから事前に意見をもらい、それを会議の中で検討している。会議の欠席者にも会議で話し合った内容を伝え、意見を出しやすいよう工夫している。	会議の目的事項の一つである「目標達成計画の進捗評価」を、会議メンバーで実施することが求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてホーム内の問題やご家族様の質問など相談したり、慰問・ボランティア訪問、地域交流の場の相談など地域に関する取り組みなど協力して貰っております。	運営推進会議の開催方法の助言を得たり、地域交流の相談をした際には、ボランティアの情報を取得する等、市の担当者とは相互に協力的な関係である。不明点等は気軽に聞ける関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回の内部研修や外部研修にも参加し理解を深め、情報は共有周知するようにしている。環境を整える事で拘束をしない取り組みを実践できるようにしている。	毎月、特別養護老人ホームを中心とした複合施設全体の安全対策委員会が開催され、介護支援専門員が参加している。その内容は、介護支援専門員によってホームでも共有されている。ホーム独自でも身体拘束の研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の内部研修や外部研修にも参加し理解を深め、情報は共有周知するようにしている。年に一度虐待防止チェック表記入し自己評価を行い管理者も評価面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回の内部研修や外部研修にも参加し理解を得るまた実践に活用できるように支援に役立っている。他職員の研修頻度が少なくもっと理解を得る機会を考えて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に相談内容や疑問点、問題点を聴き取りを行っており不明な際は細かく説明を行っている。その為契約前に時間をかけている。契約後も相談いただける事を伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催する際、事前に施設行事等運営状況を書面で郵送し意見書を返信して頂く。2ヶ月／1回は行っておりその際頂いた意見を運営に反映している。	家族面会は制限を設けているが、運営推進会議の事前質問に出てきたことは必ず返答し、家族との意見交換のキャッチボールができています。家族から出される意見は、ホームの気づきにもつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月のカンファレンスでの意見交換と検討会を行う中で職員からの相談や方針、対応など話合っている。職員の意見を聞く機会は常に開かれており、先送りしないよう心掛けている。	職員雇用は安定しており、チームワークは良い。朝夕のミーティングでは、職員同士が気になること等を伝え合っている。管理者は、日常的に職員から話を聞くようにして運営改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年勤務評定を行い専門性などの評価を各部署責任者や施設長などが評価をし面談を行っている。法人内でも勤務評定を明確にし賞与などに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内にて新人・中堅・リーダー研修会や介護福祉士実務者研修の開催、スキルに合った外部研修等参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より居宅事業所などを中心に施設全体の見学と意見交流会を3ヶ月／1回のペースで始めた。法人内でも交流の場がある。研修の際もグループワークの有る物に参加し質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員がゆっくりとご本人の気持ちに配慮し、今までの生活歴や家族との関り、ご本人の意向、意見、要望など傾聴し不安の軽減に努めている。カンファレンスや毎日の申し送りで職員全員が周知している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご家族様からの問題点や要望などに時間をかけておりホーム内にてどの様に対応していくか検討、ご説明する様に努めています。また会話の中で少しでも解決の糸口がみいだせる様に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず家族が希望する場合利用中の施設や病院などに出向き面談し生活状況や環境などを把握する様にしている。ホームでの生活が営めるかどうか見極める。また状況に応じて他施設を進める事もある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がこれならやれるという物を役割とし毎日継続できる事で入居者様同士助け合う関係性が気付け、職員が「お願いします」の声掛けが共同生活の楽しさや達成感に繋がっている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対応も徐々に緩和されご自宅に訪問できる機会も増えた事で家族との関係も距離が縮まって来ているように感じます。また交流機会の提案もさせて頂いています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の行事や買い物など入居者様の住み慣れた場所への外出を視野に入れ関係性や回想に繋がるような支援に努めており、地域の商店などの利用により馴染みの人や生活歴の維持にも繋げている。	知人・友人の訪問も、家族面会同様の制限を設けている。週に1回の移動販売車の来訪が始まり、利用者にとっての新たな馴染みの関係となっている。住み慣れた地域の「お寺探し」に出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士や趣味の合う方との買い物やホームでの畑作業など職員も一緒になり支援している。ホーム内の席の配置や役割などコミュニケーションが取れるよう支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内移動の方など元気にお過ごしですか、困ったことはありませんかなど、ご家族様のお姿を拝見した際は、声を掛けるようにしている。またご相談を受けた際は積極的に相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で各職員が入居者様の意見を傾聴したり、各担当職員が細かくアセスメントを行い、月／1回のカンファレンスや毎日のミーティングにて検討している。また家族の意向も参考にしている。	思いを言葉にしてくれる利用者が多く、その中から本当の思いを汲み取れるよう、会話を大切にしている。併設の特養に移行した元利用者の思いを汲み取り、継続して支援を行うこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の相談の時や契約時に以前の生活歴や生い立ち家族構成など聞き取りを行う際、把握に努めている。入居後もご本人との会話の中で把握できた情報は支援に活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録は時系列で記録しており、その記録に添って一日の過ごした経過や体調の変化や心身の変化など把握に努めている。職員間でも情報の共有と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員に担当利用者がいる。職員がプランに沿ったモニタリングと問題点・改善点・できる事・できない事を上げアセスメントにて実践状況を把握し職員全員で検討しカンファレンスで反映できるようにする。	毎月、家族への直筆メッセージを利用者に書いてもらい、ADLの状況を知ってもらい意見が言いやすい工夫がある。アセスメントは担当職員が行い、それを計画作成担当者が介護計画に反映させている。	利用者の意向がより濃く反映された介護計画となるよう、「ケース記録」の「配慮項目」の活用と、職員意見の集約等の取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録の項目の中にケアプランの達成状況を記録する箇所があり、職員間で日々の達成状況を共有できる為しっかりと振り返りや反省もでき実践に活かす事ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援や外出支援などその時々合った対応をしている。医療が必要となった際は多職種連携を組み、ご本人やご家族様のニーズに合った対応を実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々に活動の幅を広げたく、あま市市民活動センターに出向きボランティア訪問をして頂ける方の紹介を頂いて慰問や訪問に繋げ、地域の方の紹介で音楽観賞に出かけたりと支援活動の輪が広がった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず入居前にかかりつけ医の希望を確認している。家族の協力の下かかりつけ医や専門医など継続的な通院をご家族様をお願いしている。また受診の際は状態や体調などの記録をまとめ提供している。	協力医は、定期の訪問日以外でも、併設の特養等に来院時には受審が可能で、相談にのってもらえることもできる。特養の看護職員との連携も強固であり、適切な医療を受けられる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回グループに出勤し必ず様子や状態の把握を行い職員と情報の共有等行なっている。処置や対応も常に相談しやすい環境である。24時間のオンコール対応で緊急時の体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の病院とは日頃から連絡を密に行える環境にある。入院の際はICにも参加し情報の共有も出来ている。またご家族様よりご相談を受ける事もあり、情報交換にも努めており安心して治療に専念できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化となった場合での支援の在り方や方針の変更などの説明を行っている。その際もご家族様の気持ちに寄り添えるように努めている。法人内の特養や他の転居を支援するなど、適切な支援を行っている。	重度化した場合には、家族に説明して意向を確認し、利用者がより良い最期を迎えられるよう検討している。他の施設等に移行する場合は多く、スムーズに移行できるように情報提供等を適切に行い、家族が不安を感じないようフォローしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて心肺蘇生や急変時に備えた対応について勉強会や消防訓練の際に実践講習などあり、演習指導も参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練の中で火災・風水害の移動訓練など行っている。グループ独自で避難食を皆様と作り昼食として食べたり、居室の窓から車椅子を押し避難したりと実践に繋がるような訓練を行っている。	ハザードマップ上では浸水警戒地域になっており、複合施設全体で毎月防災訓練を実施している。備蓄品は複合施設で一括管理しているが、水に関してはホームでも独自で備えている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員が自尊心を傷つけないよう心掛けて いる。居室やトイレの際などノックをするプ ライバシーに配慮している。呼称は「さん」付 けを基本にゆっくりと会話をしている。自己 チェックで振り返りも行っている。	利用者がそれぞれ持っている誇りを大切に し、それぞれに寄り添った対応をしている。居 室には内鍵があり、一人で静かに過ごしたい 時等、プライバシーへの配慮がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	その方の表情の変化などに気を配り自己決 定ができる環境を作り、タイミングを計って 傾聴に努める。またジェスチャーやコミュニ ケーションでご本人の意思決定につなげて いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の一日の過ごし方やペースは決まっ ているが、今日の予定を伝えるがご本人の 意見を優先し話を進めていくようにしてい る。また体調不良にも配慮し見極め寄り添 える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	男性の方は共有スペースにて髭を剃って頂 き習慣となっており、行事の際はその時々 に合った服を選ぶなど気に掛けている。ボラ ンティア訪問の方によるハンドマッサージや 化粧など楽しむ機会がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	野菜の下準備やおしぼり巻き、テーブル拭 き、食器洗い等皆様のペースに合わせ行っ ており、役割としてケアプランに反映もして いる。畑が趣味の方は自分で収穫し、お漬 物を作り皆様に提供している。	3食手作りの食事を提供し、食事に関する利 用者の満足度は高い。庭で育てた野菜を利 用者と一緒に収穫し、それを食材として使 い、「次は何を育てようか」という話も弾んで いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個人別の表に食事・水分など摂取量を記録 しバランスを見て支援しており、体調の変化 も観察しながら個別支援計画を立てたりし ている。常に体調の変化はグループ看護師 に報告、相談し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	口腔内の維持管理についての助言を毎月 頂き職員で共有し外部研修等参加してい る。食事後には職員が個別に口腔内ケアに あたり維持管理に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表にて日々の排泄状況や排泄パターンの習慣を職員間で共有し自立支援に役立てている。失禁用ショーツの着用などお願いし以前の様な習慣が維持できるよう配慮している。	異性介助等の羞恥心にも配慮し、自立が継続するよう支援している。排泄レベルの低下で、布パンツからリハビリパンツへの切り替えに際しても、自ら「リハビリパンツを使いたい」と言ってもらえる関係を築いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を元にコントロールしているが施設内の運動や水分摂取量などチェックし、ご本人の体調など各職員が総合的に判断し、個人々での対応を行っている。毎週看護師に相談し改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望する時間帯や曜日、体調などを配慮しながら入浴を行っている。また安心して入浴をして頂けるよう支援している。季節行事にて菖蒲湯、ゆず湯なども提供している。	身体状況に応じて、2人で入浴介助をすることもあるが、利用者全員が湯船に浸かっている。可能な限り希望を叶え、ほぼ毎日入浴している利用者もいる。入浴中は職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合った日常習慣と入浴や外出の支援後などは水分補給後自室で休憩し体調を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が変更時期や定期薬の処方内容とその都度確認共有し注意点についても申し送りし事故にならないように努めている。その後の経過等、医師、看護師に報告、相談するように周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各職員が日常生活の中でご本人の生活歴や意向、趣味や楽しみなどをケアプランに活かしている。今年より毎週月曜日に移動販売開始となりご本人の嗜好品を購入する事で、楽しみの一つとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対応が緩和された事もあり外出支援の頻度も増えている。ご自宅にて過ごす時間ができご家族様にも協力して頂いている。思い出にと自宅での家族団らんの記念写真等職員と家族様とで協力する等ニーズに合わせた支援の取組みをしている。	コロナ感染症が5類へ移行したが、全員一斉の外出は控え、少人数や個別支援での外出に力を入れている。近くの公園で花見を楽しんだり、夏みかんを採って砂糖漬けを作る等、楽しみは増えた。お茶菓子の買い物にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週月曜日に移動販売が来ることで商品と価格を見て購入しているので考えながら手に取っている事がとても刺激になっている。また支払いの際ご本人がお金を手渡す事で買い物した満足感が得られる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を活用しご自身で連絡ができる環境であり、ご家族様にも都合の良い時間など伺って支援している。またご本人自筆の写真入り通信や年/4回の絵手紙・大切な方へのお手紙など支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を眺めて四季折々の植物や緑がある。花やプランタなどは入居者様と一緒に手入れをしており、会話がはずむ空間づくりに取り組んでいる。また自室より入居者様がお世話をしている畑や花壇など季節を感じて生活ができる場がある。	健康器具で自主トレーニングをしたり、利用者同士の会話を楽しんだり、各々が好きなように過ごしている。書道クラブで書いた作品や外出した時の写真が壁面に飾っており、それが話のネタになることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自落ち着く場にソファ椅子があり中庭を眺めて仲の良い方と一緒に過ごせる空間があり日常の写真や作品の展示がありゆっくりと会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や使い慣れた物を(寝具)持参して頂いたり、ご家族様の写真などご本人様が安心して過ごされるような工夫をしている。また植物やお花など趣味の物を飾る方もいる。	テレビや大切にしていたカメラを持ち込み、力作の塗り絵を飾り、利用者それぞれが個性のある居室づくりをしている。必要に応じ、安全に配慮して極力物を置かない対応も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札を大きく表示したり、誘導看板をご本人の目線に合わせ自立した日常生活が送れるよう工夫している。又居室や食堂での動線の確保する事で、安全かつ自分が出来る事が自信に繋がっている。		